



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2023年11月27日 第1144号「週刊五十嵐レポート」

土俵の真ん中で相撲をとる、とは

稲盛和夫氏の「実学」(日本経済新聞社)に書かれている所を抜粋。

お金のことを常に心配しては仕事ができない。必死に金策に走り回り、ようやく手形を落とし、あたかもすごい経営努力をしているかのように思い込んでいる人がある。「土俵の真ん中で相撲をとる」という言葉がある。土俵際ではなく、まだ余裕のある土俵の真ん中で相撲をとるようにする意味である。

企業財務に関していえば、「常にお金のことについて心配しなくても、安心して仕事ができるようにすべきだ」ということであり、京セラは早い時期より無借金経営に導いた。資金に余裕がなければ将来を見据えた積極的な手が打てるはずない。経営者は必要に応じて使えるお金、自己資金を十分に持てるようにする。そのためには内部留保を厚くする以外にない。自己資本比率を高くしなければならない。

貸借対照表には色濃く経営者の性格が繁栄される。会社にお金があるとすぐに使ってしまう社長がいる。無駄遣いが多く、自己資本比率は低い。每期利益が出ていない会社が1期だけ思いがけない利益が出た場合、社長は税金を抑えたいために、余計なものを買ってしまう。そのため、内部留保が溜まらない。每期定期的に利益が出ている会社の社長は、きちんと税金を払い、内部留保を蓄え、自己資本比率が高い。

土俵の真ん中で相撲をとる経営とはどういうものなのか。每期税金を支払える利益を確保できること。1人当りの粗利益が高く、顧客から選ばれる他社より優れている商品・サービスを持っていること。そして良い仕入先や協力会社を持っていること。「利は元にあり」。利益は上手な仕入れから生まれる。まず良い品を仕入れる。できるだけ有利な適正な値で買う。100個仕入れる所を200個でないと売らないと仕入先に言われた。仕方なく200個購入すると100個は売れて、残りの100個は売れずに在庫のままに。売るために大幅なディスカウントをして赤字に。こうなると利は元にあるとは言わない。新たに自社に合った仕入先を見つける必要が出てくる。

「土俵の真ん中で相撲をとる」は、顧客、競争相手、仕入先、自社の4つの真ん中で立って経営していくことでもある。

ちょっと
気になる出来事

11月15日付日経新聞、「RIZAP、75億円赤字」という記事。

RIZAPグループが2023年4～9月期連結決算は最終損益が75億円の赤字。低価格ジム「チョコザップ」事業の拡大のため投資が重荷になり、赤字が拡大。業績低迷が響き、9月末時点の自己資本比率は7.7%。

売上高810億円、営業利益-57億円。チョコザップは9月末時点1029店舗前年比7.7倍、会員数も伸びているものの、広告費、出店費用がかさんだ。24年3月期予想は、売上高1720億円、最終損益は90億円の赤字を見込む。11月14日時点のチョコザップの会員数は101万人。

最近、「チョコザップ」の店舗をよく見かけるようになった。ガチに運動する人向けではなく、ゆる系対象。仕事や買い物の合間(10分)に軽い運動。新しい顧客(市場)の創造。面白い視点。

100万人×3000円/月×12ヵ月＝年間売上360億円。他社がマネする前に一気に市場トップを狙う。強者の戦略。いい狙い目だが、財務上は弱者中の弱者。常に綱渡り。経営者の性格が出る。

小さな会社の社長がマネすると危うい。



一口メモ
知識

小を積み重ねる

徳にしたがい、小を積みめてもって高大(こうだい)なり。(地風升)

地風升(ちふうしょう)は昇り進む時を表す卦(か)である。

「升」とは小さな芽が昇り進んで、大木に成長することを意味する。

昇り進むためには、徳を養い、些細(ささい)に見えても小さな事を日々刻々積み重ねていくことだ。

そうすれば、いつの日にか、高く、大きく成長する。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

